

キリスト教活動
GUIDE BOOK

東北学院大学 宗教部

東北学院にとってキリスト教とは？

本学のキリスト教についてよく知ろう

まず本学院が最も大切にしている「建学の精神」(スクール・モットー)についてです。これは東北学院の教育の基本理念であり、本学院が存続する限り不変の教育方針です。

泉キャンパス礼拝堂

1.「建学の精神」

東北学院の三校祖、押川方義、W. E. ホーイ、D. B. シュネーダーは、東北学院の建学の精神を、宗教改革の「福音主義キリスト教」の信仰に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」の教育にあるとした。その教育は、聖書の示す神に対する畏敬の念とイエス・キリストにならう隣人への愛の精神を培い、文化の進展と福祉に貢献する人材の育成を目指すものである。

東北学院は
創設に尽くされた三人の先生たちを
本学院の「校祖」として敬っています。

2. 「三校祖」

おしかわまさよし
押川方義
(1850-1928)

松山藩士橋本家の三男として生まれ、押川家に入る。横浜英学校でキリスト教に触れ、1872年(明治5年)に横浜でJ. H. パラより受洗しキリスト者となる。日本基督公会の進展に励む。1886年、仙台にキリスト教の伝道者を養成しようと願い、W. E. ホーイとともに、仙台神学校を創設した。5年後(1891年)にこれを東北学院と改称し、初代院長に就任した。



ウィリアム・E. ホーイ
(1858-1927)

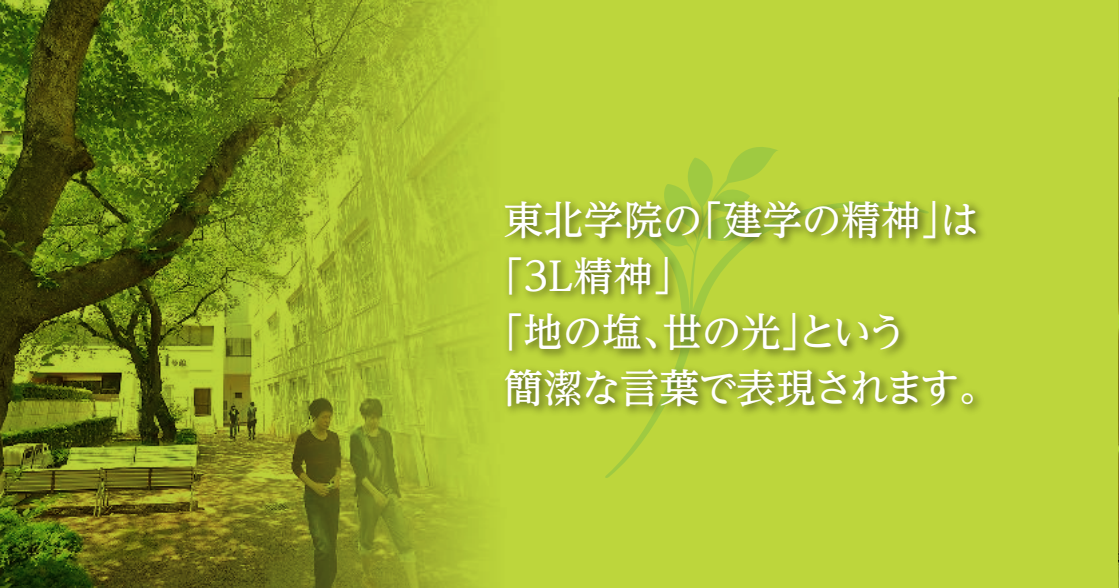
アメリカ・ドイツ改革派教会の宣教師。米国ランカスター神学校卒。1885年(明治18年)に来日。押川方義と共に翌年、仙台神学校、宮城女学校(宮城学院)を創立。翌年東北学院副院長に就任し、1900年に学院を辞して中国湖南省でキリスト教の伝道に従事した。



デイヴィッド・B. シュネーダー
(1857-1938)

アメリカ・ドイツ改革派教会の宣教師。米国ランカスター神学校卒。1887年(明治20年)に来日。前年創立された仙台神学校において教師として押川、ホーイらと共に教育活動を担う。1901年に第二代院長に就任。35年におよぶ在職中、東北学院を私塾的な学校から中学部、高等学部、神学部を備えた、公的性格を有するキリスト教教育機関として発展させた。東北学院中興の祖。





東北学院の「建学の精神」は
「3L精神」
「地の塩、世の光」という
簡潔な言葉で表現されます。

3. 「3L精神」

「3L精神」とは「LIFE」「LIGHT」「LOVE」という「L」ではじまる英単語を指した、東北学院の教育理念を示す標語です。本学院のキリスト教教育を通して、学生一人ひとりが「(全世界の)生命、光、愛」となることを願って掲げられました。東北学院は、この教育理念が21世紀の今日において広く理解されるように、「LIFE LIGHT LOVE」の原形である「LIFE, LIGHT AND LOVE FOR THE WORLD」をスクール・モットーとしました。「いのち(人命・人格・人権)」と「光(理性・知識・希望)」と「愛(信仰・隣人愛・礼拝)」を「世界のために」捧げて生きていくことは、本学の建学の精神や教育方針を最も的確に表現したものです。

4. 「地の塩、世の光」

「地の塩、世の光」はイエス・キリストの語られた言葉に由来する、本学のもう一つのスクール・モットーです。適度の塩は食材に調和して、食材の味を上手く引き出し、料理を美味しく仕上げます。塩にはさらに腐敗を防止する効果があります。また光は闇を照らします。さらに光は地上のあらゆる生き物の成長を促します。

本学の学生が卒業後も、生涯にわたり、地域社会で、世界で、塩のような、光のような良い役割を果たしていくことを願って、簡潔に表現された言葉です。本学の卒業式では、卒業生は皆この聖書の言葉に背中を押されて、社会へ巣立っていきます。

では、もう少し丁寧に
東北学院とキリスト教との関わりを
見ていきましょう。

東北学院大学の教育とキリスト教





3 キリスト教の学び

2 「大学礼拝」について

1 「建学の精神」とは



1. 「建学の精神」とは



「東北学院大学」をよく知ろう!

【建学の精神】東北学院の三校祖、押川方義、W. E. ホーイ、D. B. シュネーダーは、東北学院の建学の精神を、宗教改革の「福音主義キリスト教」の信仰に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」の教育にあるとした。その教育は、聖書の示す神に対する畏敬の念とイエス・キリストにならう隣人への愛の精神を培い、文化の進展と福祉に貢献する人材の育成を目指すものである。

日本の私立学校には、創立時に掲げた独自の設立目的があります。全国の私立学校には創設者たちの設立の志が今も脈々と流れ、受け継がれています。それが「建学の精神」です。各学校ではこの「建学の精神」に即した学則が定められています。

本学の場合、「学則」第一章の第一条で、本学の教育目標が示されます。

第一条 東北学院大学は、キリスト教による人格教育を基礎として、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、もって世界文化の創造と人類の福祉に寄与することを目的とする。

ここに「キリスト教による人格教育」を教育の基礎に据える、と明記されます。そこで、



本学の「キリスト教」とは何か、またその「人格教育」とは何かを具体的に明らかにしなければ、本学の教育理念は鮮明になりません。そこで改めて、本学校法人が1996年4月16日理事会で決定し、キリスト教学校同盟に公式に提出した上記の本学の「建学の精神」は重要です。

東北学院の「キリスト教」は、具体的には「プロテスタント(新教)」です。プロテスタントにも様々な教派がありますが、東北学院は特定の教派主義でなく、聖書の教えを大切にす、広い意味で正統的な「福音主義」のプロテスタントです。

「人格教育」に関しては、本学の土樋の中央図書館の入口に「エホバを畏るるは知識の本なり」(新共同訳「主を畏れることは知恵の初め」)に由来)の旧約聖書の言葉が刻まれていることと無関係ではありません。古来、大学での教育は書物を介して行われてきました。図書館の入り口は、学問の入り口を象徴します。そこに示される「主なる神を畏れる」とは、神を信じ、神のみを神とすることです。「知恵の初め」は教育の基本、および目的です。そのため、「主なる神を畏れる」行為としての大学礼拝は、教育の基礎となる人格教育のために行われています。

さらに、本学では1年次3年次のキリスト教の学びを必修科目としています。これも学則第一条に記される本学の教育理念「キリスト教による人格教育」に関わります。つまり、本学は、大学礼拝とキリスト教の学びによって、「建学の精神」を具体的に学ぶように設定され、教育理念を実現しているのです。学則第一条の「キリスト教による人格教育」は、本学での教養教育、専門教育、研究という学際的な営みの基礎として欠かせない、重要な教育活動です。

2. 「大学礼拝」について



大学礼拝にいつも出席しよう!

本学の入学試験では、監督の先生が必ず朗読する「大学礼拝について」という短い文章があります。本学の学生は例外なくみなこの文章を聞いて入学してきました。そこにはおもに4つのことが記されていましたので、改めて確認しましょう。

- 第一、東北学院大学が1886年の創立以来、礼拝を毎日欠かさず守ってきたこと、
- 第二、大学礼拝が東北学院大学の教育の根底をなす特別な時間であること、
- 第三、大学礼拝が「讚美歌・聖書・説教・祈り」を中心に構成されていること、
- 第四、「本学を志す者は、建学の精神の理解を深めるために毎日の礼拝に出席することを了承する者でなければなりません」という礼拝出席の勧めです。

東北学院は礼拝を大切にしている大学です。そこで受験生にまずその点をお伝えしたのです。

礼拝を大切にする姿勢は、押川方義、W. E. ホーイ、D. B. シュネーダーの三校祖が本学に据えた精神です。三人の先生たちは、自分自身の英知ではなく、聖書の言葉を土台にして東北学院を築きました。

東北学院大学では講義期間中は毎日、全てのキャンパスで大学礼拝を行っています。オルガンの美しい演奏に耳を傾け、心をつにして讚美歌を歌い、聖書の言葉とその大切な教えである説教に耳を傾け、共に祈りを捧げます。簡素なスタイルの大学礼拝ですが、この礼拝が東北学院大学の基盤です。

通常の礼拝の中で、時に外国人教師によって、すべて英語で行う「英語礼拝」や、あるいはオルガン演奏や独唱・合唱に耳を傾ける「音楽礼拝」も行われています。

毎日の礼拝は、神と出会い、自分自身を深く見つめる場です。各キャンパスで過ごす4年間が、学生一人ひとりの生涯にわたる確かな精神的基盤を提供する貴重な時になることを願って、大学礼拝は行われています。1年生は、少なくとも、週に3回、2年生以上は週に2回を目安に大学礼拝に出席して下さい。もちろん、原則として毎日出席することが奨励されます。

学生たちから、しばしば大学礼拝は「義務」ですか、という声が聞かれますが、大学礼拝は東北学院大学生の「権利」なのです。

なお、礼拝堂内では、電子機器類、すなわちスマホ、携帯等の使用は禁止です！飲食も私語も慎みましょう！大学生としての「オトナ」のマナーをしっかり身につけましょう。

3. キリスト教の学び



聖書は「よく生きる心」の道しるべ

東北学院大学では、キリスト教の学びが「TGベーシック」の必修科目に設定されています。1年次には、前期の「聖書を学ぶ」、後期に「キリスト教の歴史と思想」を学びます。入学初年度は、キリスト教の基本を学んでいきます。3年次には「キリスト教学」が、A(倫理)B(宗教)C(文化)D(現代)に分かれ、各テーマを選択します。こちらは1年次で学んだ基本を前提として、応用の学びになります。1年次、3年次のキリスト教学は、「建学の精神」が目指す本学の教育理念を詳細に学び、実践するための教科です。

日本の、多くの子どもたちが学ぶ公立学校では「宗教」に関する教育を行うことは禁じられています。この状況は欧米諸国のそれとは異なり、多感な子どもたちから宗教について真剣に学び、考える機会を奪うことになっています。昨今の社会的事件や現象で、現代日本では宗教に対する「偏見」が広がっています。他方で、日本の社会は、長く存続する世界宗教をはじめ、多様な新興宗教が広がる宗教的な国であることも看過できない事実です。しかし現代は、幅広い視野から宗教についてより良く理解することは必要な課題です。外国の異文化を理解するためにも、その文化の根底にある宗教を理解することは、学生時代に学ぶべき大切な課題です。

キリスト教の学びは、東北学院大学の教育方針に欠かせません。本学のキリスト教の教育は、学生の皆さんをキリスト教に改宗させるためのものではなく、世界の文化や思想、現実の状況や出来事、さらに自分の人生や人々の生き方を良く学び、知るために行われています。

キリスト教を基礎とした本学での学びが、よく生きる心を育み、学生皆さんの卒業後の、長い人生の精神的な基礎となりうるように期待しています。



宗教部の諸行事



スプリング・カレッジ



主に、キリスト者等推薦入試制度によって入学した学生を対象として開催しています。大学の宗教活動に積極的に参加することを誓約した学生の皆さんが、4年間の学生生活をどう過ごしたらよいのか、学内のキリスト教活動にはどんなものがあり、どのように関わっていったらよいのか等、先輩・後輩と一緒に集まって語り合います。キリスト者等推薦入学生は必ず出席しなければなりません。



サマー・カレッジ



例年、前期の講義期間の終了の直後に行われています。キリスト者等推薦学生はもちろん、キリスト者の学生をはじめ、希望する学生は誰でも参加できます。積極的に参加してください。プログラムには、2つの講演を通しての学び、グループ懇談、祈りの時、讃美の時、汗を流すレクリエーションの時、野外体験学習など、多様なイベントを用意しています！参加学生たちが主体的に運営するカレッジです。立地の恵まれた自然環境の中で、学生や教職員も一緒になって楽しい時を過ごし、良い思い出を残しましょう。



特別 伝道礼拝



春と秋に開催される「特別伝道礼拝」のことを、略して「特伝」と言う時もありますが、春はおもに国内のキリスト教会の牧師として働かれている先生方をお招きし、聖書に沿ってお話をさせていただきます。秋は福祉や社会活動などの領域で働かれているキリスト者の方々をお招きして、ご自身の体験や活動に関するお話をさせていただきます。この日は、いつもの礼拝時間よりも30分ほど長い礼拝を行いますので、第一校時の講義終了時間と第二校時の開始時間に注意してください。第1校時は15分早く終了し、第2校時は15分遅く開始します。

大学 クリスマス礼拝



「キリスト教」と言えば、多くの人は「クリスマス」を思い浮かべるでしょう。東北学院大学では、三つのキャンパスで、それぞれ大学クリスマス礼拝を行います。礼拝の第一部では外部講師によるクリスマス・メッセージを中心とした礼拝を行い、第二部では特別に編成された合唱団によって、ヘンデル作「メサイア」の演奏が行われます。なおこの礼拝では、「献金」をお捧げします。献金とは、神へ感謝の意を表す各自の献げものです。本学では、学内の他のクリスマス礼拝で捧げられた献金も加えて一つにし、仙台ののちの電話、ありのまま舎などの社会福祉法人、日本海外医療協力会、日本盲人伝道協議会などの献身的な働きに感謝し、支援するために送金しています。送金先や送金額は毎年東北学院時報に掲載して報告しています。詳細はそちらをご覧ください。

聖歌隊

本学の聖歌隊は宗教部に属し、おもに大学礼拝で奉仕し、宗教音楽を歌う合唱団です。その他に、入学式や卒業式などの式典をはじめ、「クリスマスのメサイア合唱」、「宗教音楽の夕べ」などで日頃の成果を発表します。声楽の専門の先生の指導のもとで、活発に活動しています。関心のある学生は、泉キャンパス礼拝堂1階の聖歌隊室に来て下さい。一人で歌うのが苦手な人も、仲間と一緒に歌うことで、いつのまにか歌う喜びのとりこになってしまいます。さあ、皆さんをはじめよう、「Campus Life with Music」!



聖書研究会

各キャンパスでは、宗教部の先生やクリスチャンの先生たちが、毎週聖書やキリスト教関係の書物を用いて、学びの会を開いています。「聖書研究会」と聞くと一見、難しいことをしているように思われるかもしれませんが、どの会も楽しく、それぞれ特色のある学びを行っています。誰でも参加できますので、開催キャンパス、開催曜日、時間、テーマ等、詳細は礼拝堂入口の掲示板で確認してください。



創立記念式典・記念礼拝

本学は、毎年5月15日を東北学院の創立記念日として定めています。いわゆる学院の「誕生日」です。この日は、土樋キャンパスのラーハウザー記念礼拝堂で創立記念式典を開催し、その後、北山墓地で校祖墓前礼拝を行ないます。本学の出発とその後の歴史を振り返り、初心に戻り、さらに決意新たに未来に進ずる時です。





東北学院大学 宗教部